

2015年度 浦安市協働提案事業 「浦安景観まちづくり実践講座」(第2回) 「道路・みどり(軸)景観資源探し」が開催されました

浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働事業として、2015年度「浦安景観まちづくり実践講座」第2回、「道路・みどり(軸)景観資源探し」が、7月19日(日)美浜公民館で開催されました。午前10時より総勢28名の皆さんを、やなぎ通りグループとシンボルロードグループの2班に分け、道路沿いの「よい景観」と「改善したい景観」を探しに出発しました。猛暑の中、皆さんどうもありがとうございました。

午後にはフォーラムを開催し、探した景観資源の整理を行い、中山高樹さん(浦安市教育委員会生涯学習課)から、シンボルロードとやなぎ通りの整備と経緯についてご説明をいただきました。以下、当日の様子をご紹介します。



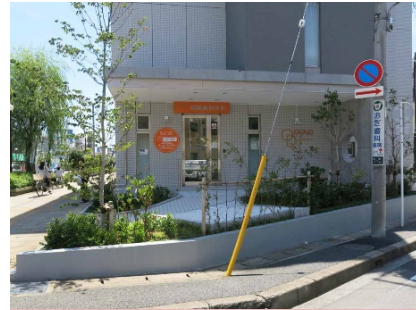
まち歩きの様子

■まちあるきの結果(やなぎ通りグループ)

美浜公民館からやなぎ通りに出て、東西線浦安駅前の歩道橋まで歩き、路線バスで公民館まで戻りました。①植栽、②道路、③看板、④建築物のカテゴリーに分け検討しました。

- ① **植栽** やなぎ通りなのに柳が少ない／柳を補充して街路樹にしてはどうか／湾岸道路の緩衝緑地帯は木も雑草も繁っており適切な管理が望まれる／景観計画に書かれているような辻空間の演出がよい
- ② **道路** シンボルロードの歩道の一部が自転車通行帯だが、分かりやすい表示が必要／やなぎ通りは電線の地中化ですっきりしているが、歩道の仕上げ材が統一されていない／道路標識では英文表記が無いものやローマ字表記のものが見受けられた／道路照明等も統一されていない
- ③ **看板** 浦安駅の入り口の看板が混乱している／広告の種類が多く、のぼり旗も景観を阻害している

- ④ **建築物** 沿道の建物は色、形、高さ、材質全てバラバラなので、現在の貧弱な柳並木を他の樹種に切り替えて、見苦しい景観を少しでも隠すことが出来ないか



評価の高かった辻空間

■まちあるきの結果(シンボルロードグループ)

午後の講師の中山さんと一緒に美浜公民館からシンボルロードへ出て、総合公園まで歩き、路線バスで美浜公民館まで戻りました。①いい景観、②改善したい景観に分け検討しました。

- ① **いい景観** シンボルロード沿いは緑が緩衝帯になり電線もなく看板も目立たず、すっきりとしている／新浦安駅前の「うらやす 100年モニュメントタワー」は1984年に100周年を記念して設置され、19.84mの高さ(中山さんの説明)／入船中央の緩衝緑地帯と歩道のレイアウトが美しく、特に歩道の曲線が素晴らしい／明海大学のキャンパスは起伏を設けたアメリカ的なランドスケープで高評価／シンボルロードの交差点角には街区公園や緑地などが整備されており良い評価



新浦安駅前のモニュメント

- ② **改善したいところ** 日の出地区の商業施設の看板は新町地区の景観に合わない配色もある／新町の道路では交差点名称や通り名称の整備がされていない／歩道上の自転車通行帯の表示が分かりづらい／歩道上に点字ブロック、自転車道が混在

している／照明柱や車止めがさびている

■やなぎ通り・シンボルロードについての講義

午後、中山さんからやなぎ通り・シンボルロードの整備と経緯、震災復興の対応、今後の課題について講義がありました。休憩の後、参加者の皆さんから、活発な意見と質問がありました。



教育委員会・中山高樹さん

- ・ **シンボルロードの整備**：シンボルロードは昭和 50 年当時、埋立地造成の土砂や資材を運ぶための工事用道路だったが、浦安市は昭和 62 年「浦安シンボルロード整備計画」において重要な都市軸として、浦安の象徴的な通りとして整備することにした。
- ・ **なぜシンボルロードなのか？**：昭和 60 年から平成 5 年まで、建設省（当時）はその都市を代表する通りの景観整備に補助金を付ける事業を行い、浦安のシンボルロードは全国で第 9 番目の補助対象事業として認定された。道路名称を募集したところ、「シンボルロード」という名称に馴染みがあったのか応募数が一番多く、採用された。
- ・ **新浦安駅前のシンボルロード整備**：浦安市の基本構想「緑あふれる海浜都市」に基づき、緑の大通りと住棟に連続する緑の空間整備を行った。入船東エステートはシンボルロードから一步入ると住棟に囲まれた緑豊かな環境が整備されている。駅前の課題として、震災復興でステージが来ているが、京葉線開通後 20 年が経過し、魅力ある空間をどうつくっていくのか、見直す時代に入っていると思う。
- ・ **やなぎ通りの電線地中化**：浦安橋から湾岸道路までの整備で、関連事業主との協議が進んでいる。浦安駅前のスクランブル交差点から市民活動センターまでは、東京電力や NTT が単独で、大三角線の交差点までは県が CAB 事業で、市、東京電力、NTT でそれぞれ負担し

て整備をした。浦安橋側は未着手である。

- ・ **シンボルロードのリニューアル（課題）**：【中町】緊急輸送路としての機能維持、沿道街区道路のセットバックの維持とリニューアルが課題。【元町】浦安橋からの景観整備に取り組む必要があるが、浦安橋あたりは歩道幅員が不足、電線地中化も難しい。【新町】海風のまちの店舗付き住宅の活用、沿道商業施設等のリニューアル、セットバック用地とセミパブリックスペースの積極的活用と維持管理が必要。

■中山講師への質疑応答とディスカッション



当日の様子（中山さんと意見交換）

- ・ **やなぎ通りの柳は植えないのか**：柳は大きくなると扱いにくい。他の樹木（イチヨウ、桜など）を検討したほうがいいと思う。
- ・ **やなぎ通りの電線地中化導入時、地権者や町会と協議したのか**：しっかりした対応はできなかったと思っている。特に大三角線から湾岸道路方面は県のみでの事業で実施され、市との関係は薄い。

次回の浦安景観まちづくり実践講座は下記を予定しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

■イベント案内*****

- 【協働事業】「浦安景観まちづくり連続講座」
2015 年度 第 3 回「水辺(軸)景観資源探し」
日時：9/13 (日) 10 時～16 時・若潮交通公園の桜下ベンチ集合（午後のフォーラム・高洲公民館）／参加費：無料／申込・問合せ：
asakawa@comdesign.jp（フォーラム・浅川）